

編集後記

今年、本誌はちょうど 50 巻目を迎えた。その節目となる第 1 号では、「精神医学的コミュニケーションとは何か—精神科専門医を目指す人のために」を特集で組んでみた。この半世紀の間に精神医学も医療もずいぶん変わったが、変わらないのは精神医学的コミュニケーションのあり方ではないかと思うと、この特集は原点にいま一度立ち還ったような、記念号に相応しいものではないかと勝手に自負している。しかし一方では、EBM 重視に沿って自然科学的な計画性や厳密性、客観性が求められ画像や統計処理された論文が多くなっている潮流の中で、それらと趣の異なる、主観や感性に呼びかけるような本特集の反響はどうかと内心では心配している。

巻頭言で岡田元宏先生が書かれているように、操作的診断の普及は精神疾患概念の標準化と共通言語化というプラスの側面をもたらしたが、そうした中で零れ落ちたものにも目を配り、それらをいかに掬い上げるのかも忘れてはならないだろう。零れ落ちやすいのは、時代性や地域性、そして個人性である。同一の疾患であっても、時代や地域、個人の特性によって診断基準から外れてしまう。情報と交通の均一化や高速化によって地域性が消えたといっても、その風土に深く根ざした精神性といったものはまわりの動きと時間差をもって移っていく。今日でも、都会から田舎に行くと、時の流れがまるで違うことに驚くことがある。個人性については、患者の場合だけではなく、精神科医の側にもあると思われる。患者の場合には、pathogeneticish なものは同じで pathoplastish な部分だけが違っているに過ぎないかもしれない。精神科医の場合には、時代の影響をもっと受けるのではないだろうか。つまり、精神科医の診方が時代とともに変化するのではないかということである。たとえば統合失調症は軽症化しているといっても、それは我々の診方が変化した結果に過ぎないのかもしれない。精神科医の側が時代の流れに侵食され変質していくのである。若い精神科医と同じ患者を診ていると、時代差による個人差を感じることもある。操作的診断に慣れっこになっているうちに、あるいは昔は「異常」「奇妙」とみられていたものが「正常」「普通」となっていく社会の変化の中にどっぷり浸かっているうちに、精神疾患像も患者像も変わっていくだろう。精神科医の個人性こそ時代から逃れられないのかもしれない。内海健先生の論文を読んでいて、忘れていた旧知の人に不意に出くわしたような気がし、とりとめもないことを連想してしまった。

ともあれ、50 巻第 1 号から若い人が多くのことを連想し、精神科医として豊かな個人性を身につけていただければ幸いである。(M.I.)

■ 編集委員

飯森眞喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

松岡 洋夫

三國 雅彦

山崎 晃資

(ABC 順)

精神医学 (第 50 巻 第 1 号)

2008 年 1 月 15 日号 (毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5 %)

2008 年々ぎめ予約購読料 30,600 円 (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・小松原

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株)丹水社 電話 (03) 3561-1323

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は(株)医学書院が保有します。

・ JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199) の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。